

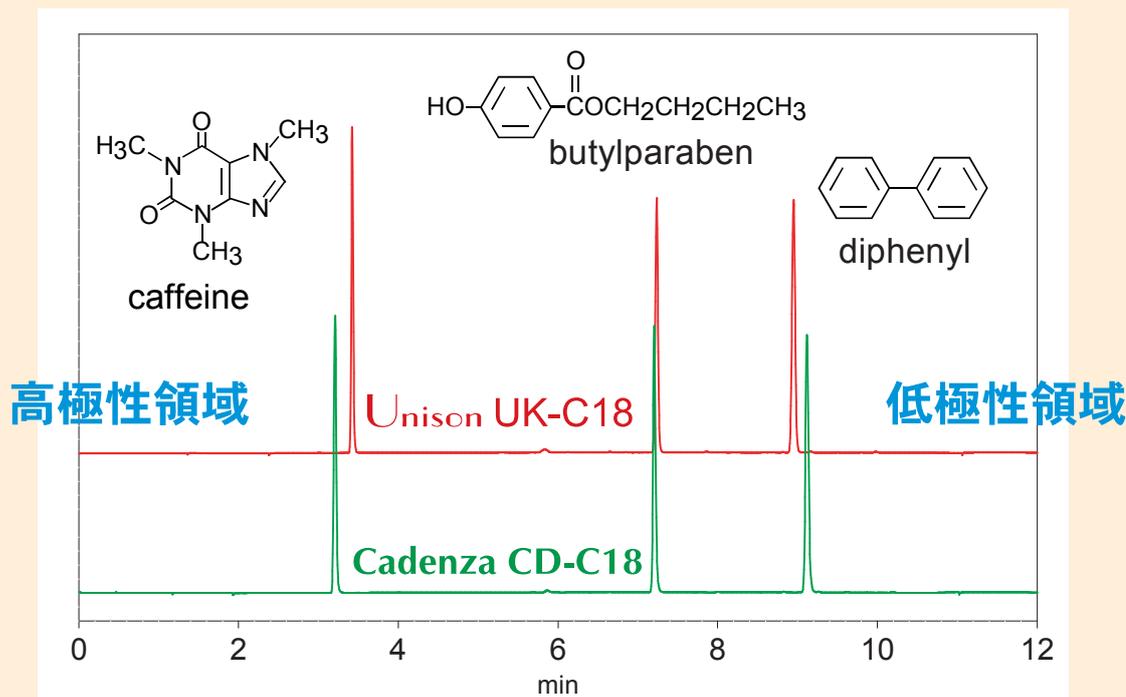
Unison UK-C18  
Cadenza CD-C18

75 x 4.6 mm

Technical

## Unison と Cadenza の溶出特性 (1)

### 優れた分離バランス



A: water, B: acetonitrile, 0-100%B (0-10 min), 1 mL/min, 37 °C, 260 nm

Unison シリーズの3 $\mu$ m ODSカラムUK-C18は、Cadenza CD-C18とは異なる保持特性を有しています。上図はその違いを示したものです。

高極性～低極性化合物まで溶出できる逆相グラジエントモードにおいて、UnisonとCadenzaの保持特性を比較しました。

Unison UK-C18は、有機溶媒濃度が数10%までの高極性領域でcaffeineのような高極性化合物の保持が大きく、逆に高濃度の有機溶媒下においてはdiphenylのような低極性化合物の保持が小さい、という特性を示しています。

薬物動態研究においては、代謝産物の極性は一般に高くなるために、通常のODSカラムでは薬物と代謝物の分離度が大きくなり、同時分析には不利です。このような極性の離れた物質をバランス良く分離するときに、UnisonのODS固定相が役に立ちます。

一般に、高極性化合物の場合はUnison、低極性化合物の場合はCadenzaが推奨されますが、微妙な分離に関してどちらが好適であるかは、分離対象構造に依存します。

分離の最適化の検討段階で両者をお試しいただくことをおすすめします。